

HOSEI

Communication Magazine

11.12

2021

20

グローバル教育センターでは、
「世界のどこでも生き抜く力を持ったグローバル人材の育成」を通じ、
海外留学支援やグローバル教育の推進に取り組んできました。

2020年来、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の
影響は少なくありませんが、コロナ禍でも可能な
オンラインでの教育プログラムを開講するなど、
グローバル教育の歩みを止めることなく進んでいます。
本記事では、本学の多彩な国際プログラムの概要、
プログラムに参加した学生や
卒業生の声などを紹介します。



副学長（国際担当）
グローバル教育センター長
ダイアナ・コー

To make the world
a better place

「世界」をより良い場所に
するために

Growing up in the Chinese society of Hong Kong under British colonial rule, studying in culturally diverse California and working and living in increasingly 'globalized' Tokyo, I have seen not only inequalities and problems, but also the strength of young people who try to make the world a better place for all. Hosei University provides opportunities for our students to experience the world and think creatively about what they can do to make the world a better place for all. Seize the opportunities!

英国植民地支配下の香港で生まれ育ち、多文化的なカリフォルニアで学び、グローバル化されつつある東京で働き生活する中で、私はさまざまな不平等や問題に気づく一方で、より良い社会を作ろうとする若者の強さも目の当たりにしてきました。法政大学では、学生たちが「世界」を体験し、この世界をすべての人にとってより良い場所にするために何ができるかを創造的に考える機会を提供します。この機会をつかみましょう！

法政大学の グローバル教育 2021

HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。



コロナ禍での大会で全力を尽くした出場者



見延選手が獲得した
金メダルと共に



仲間からの胴上げに
歓喜の表情で宙を舞う
見延選手

廣瀬総長と見延選手の対談を「HOSEI ONLINE」の
「卒業生の声」で公開しています。ぜひご覧ください。



※ HOSEI ONLINEは読売新聞社の公式
サイト「読売新聞オンライン」とタイアップし、総長との対談などを公開しています。

<https://yab.yomiuri.co.jp/adv/hosei/>

2021年9月7日（火）、東京
2020大会に出場し日本史上初と
なるフェンシング・エベ団体戦で金
メダルを獲得した本学体育会フェン
シング部卒業生の見延和靖選手（法
学部卒）をはじめ、吉田健人選手
（法学部卒）、福島史帆実選手（法学
部卒）、西藤俊哉選手（法学部卒）、
敷根崇裕選手（法学部卒）、東京
2020日本代表の青木雄介総監督、
橋本寛コーチ、体育会フェンシング
部の伊藤マモル部長（法学部教授）、
下川禎監督、OB・OG会の酒井裕会

長、近藤昌義幹事が廣瀬克哉総長を
表敬訪問し、東京2020大会の戦
績を報告しました。
フェンシングにはエベ、フルール、
サーブルという3種目がありますが、
特にエベは日本人の体格上勝ちにく
い種目ともいわれています。見延選
手は「そういったことにとられず、
チャレンジ精神を持って挑みまし
た」と語っていました。
廣瀬総長は「新型コロナウイルス
感染症の影響で大会開催の可否が問
われるなど、あらゆる葛藤やプレッ

シャーがあつた中で輝かしい成績を
収められたことに心から敬意を表し
たい」と選手たちの活躍をたたえま
した。選手たちの活躍をたたえま
した。選手の皆さんは「2024年
のパリオリンピックに出場し、メダ
ルを持ってまた訪問できるようにし
たい」とすでに次を見据えています。
今後ともフェンシング日本代表選
手および体育会フェンシング部に温
かいご支援・声援をよろしく願
います。

体育会フェンシング部の東京2020オリンピック 出場者が総長を表敬訪問しました

HOSEI 11・12 Contents

communication magazine 2021

02 **HOSEI EYE** 体育会フェンシング部の東京2020オリンピック出場者が
総長を表敬訪問しました

03 法政大学のグローバル教育2021

08 2021年度就職内定者オンライン座談会

12 卒業生インタビュー

「授業にサークルにアルバイト、学生時代の経験はすべて糧になる」
株式会社NTTドコモ サービスデザイン部
アプリケーション開発担当 佐々木 千枝さん

14 **ESSAY**

「匠と媒体—古典の継承」
国際文化学部国際文化学科 准教授 深谷 公宣

16 **HOSEI PHRONESESIS** VOL.40

「ロボット技術により、仮想現実を自由に動き回るような未来を創る」
理工学部電気電子工学科 准教授 中村 壮亮

18 **MY CAMPUS, MY LIFE**

文学部地理学科 伊藤達也教授ゼミ／軌道部

20 **Message** 「『さまざまな視点に立って考える』ことでより良い作品を作る」
小金井オープンキャンパススタッフ代表
生命科学部応用植物科学科3年 島崎 優也さん

21 **THE SCENE** VOL.132 ラグビー部

22 **後援会だより** 「キャリアセンターから会員の皆さまへ」
「写真で見る2021年首都圏父母懇談会」ほか

26 **HOSEI ミュージアム** VOL.022

「ミュージアム・サテライト小金井竣工記念 法政理工系のあゆみ（後編）
～念願のキャンパス～」

27 校友会だより

28 **HOSEI TOPICS**

30 **自由を生き抜く実践知** ブランディング推進チームの活動

31 **BOOKS**

COVER 多摩キャンパス 撮影：平野太呂

多摩キャンパスの正門から総合棟・図書館方面に向かう坂道には櫟の並木が植えられており、10月下旬から11月にかけては木々の葉が赤や黄色に色づきます。キャンパスに活気が戻ってきています。

ERP (英語強化プログラム)

English Reinforcement Program

【募集時期】春学期：4月 秋学期：9月

ネイティブスピーカー講師による英語4技能 (listening, speaking, reading, writing) の養成とその統合を目的としたプログラムです。受講にあたり一定レベルの英語力が求められますが、英語学習の意欲が高いすべての学部・研究科の学生を対象に開講しています。

Point

- 受講料は無料です (教材費は別途かかります)。
- 授業はすべて英語で実施されます。留学前の準備や留学後の英語力維持に最適です。
- 各クラスの定員は15人程度のため、きめ細やかな指導を受けることができます。



Gラウンジ

キャンパス内にいながら、外国人留学生や英語学習アドバイザーなど、ネイティブスピーカーと日常的なコミュニケーションの機会を持つことができる国際交流ラウンジです。実践的な英会話で語学力をブラッシュアップできる他、英会話に苦手意識のある学生を対象にアドバイザーとの会話機会を設けています。

【各キャンパスのGラウンジの場所・開室日時】

市ヶ谷Gラウンジ：大内山校舎2階

多摩Gラウンジ：総合棟地下1階

小金井Gラウンジ：管理棟4階

※各キャンパスのGラウンジ担当在室日時

授業実施日の月・火・木・金 9:00～17:00 (11:30～12:30 除く)

【オンライン実施状況】

英語学習アドバイザーとの交流は、授業実施日のうち月・火・木・金、12:30～15:30 (3キャンパス共通) にオンラインで実施しています。参加にあたって予約は不要です。新型コロナウイルスの感染状況に合わせて対面とオンラインを並行して実施しています。



～コロナ禍でも「グローバル化」を進めるため、
新たな取り組みを開始しました～

オンライン留学の実施【14カ国】

2020年度は派遣留学、短期語学研修、国際ボランティア・インターンシップ、学部独自の海外研修を、オンラインを活用して実施し、計14に及ぶ幅広い国や地域のオンライン授業・研修に参加しました。

海外大学・機関とのオンライン交流会

【10カ国・16大学】

本学学生と海外の学生との異文化交流の機会を創出するため、海外大学・機関とさまざまなオンライン交流会を企画・実施しています。交流テーマは「各国の伝統行事」から「起業・自営活動に対する認識や社会的価値」まで多岐にわたり、2020年5月から2021年9月までの間に計10カ国・16大学と41回のイベントを実施しました。



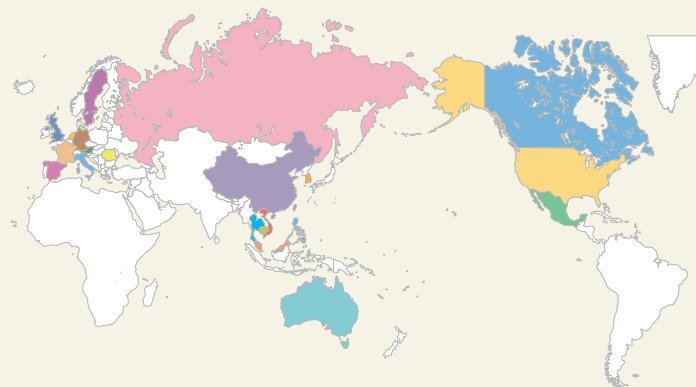
オンライン交流会：「リーズ大学 (英国) との交流会における学生のプレゼンテーション」の様子 (2021年7月実施)

法政大学海外留学ファースト・チャレンジ奨励金

入学後早期からの自主的な海外留学・海外研修活動を奨励するため、2021年度より「法政大学海外留学ファースト・チャレンジ奨励金」制度を新設しました。本奨励金は、夏季・冬季・春季休業期間中に、学外機関主催・提供の海外留学・海外研修プログラムのうち所定の要件を満たしたものに参加した学部1、2年生に対し、選考の上、上限5万円を支給するものです。新型コロナウイルス感染症の影響により海外への渡航が困難な現状を踏まえ、オンラインプログラムも支援対象としています。

その他、ERP、Gラウンジ、全学TOEIC® IPテストなどもオンラインで実施しており、コロナ禍においても継続的な英語学習支援の場を提供しています。また、グローバル教育センターでは、皆さまからの各種ご質問・ご相談をオンライン (Zoom など) でも受け付けています。

オンライン留学・オンライン交流会実施国



※グローバル教育センターではその他、認定海外留学制度、全学TOEIC® IPテスト実施 (無料)、語学試験対策講座実施 (有料)、グローバル・オープン科目開講、法政グローバルデー開催など、さまざまな取り組みを行っています。各プログラムの詳細・応募方法はグローバル教育センターウェブサイトからご覧ください。

<https://www.global.hosei.ac.jp/>

多彩な国際教育プログラム

本学では、学部・学科を問わず参加可能な国際教育プログラムを数多く実施しています。

本誌面では、代表的なプログラムを紹介するとともに、

コロナ禍の制約の中での、オンラインを活用した取り組みについても紹介します。

派遣留学制度

【募集時期】春学期入学：6月上旬
秋学期入学：10月中旬

学部を問わず、2・3年生の応募者の中から選考を行い、3・4年次に本学と協定を結ぶ海外22カ国・地域の64大学・機関へ1年または半期派遣する留学制度です。



派遣留学生への
奨学金支給額

最大 **100** 万円

短期語学研修

【募集時期】夏季：4月頃 春季：9月頃

夏休みと春休みの2～4週間、マレーシア・アメリカ・カナダ (英語)、中国・台湾 (中国語)、韓国 (朝鮮語)、オーストリア (ドイツ語)、フランス (フランス語) の各協定大学付属語学機関で語学を学習する留学制度です。なお、2021年度春季オンラインプログラムの参加者を募集中です (12月5日締切)。

Point

- 語学力・学業成績を問わず、全ての学部生が応募可能です。
- 個人の語学力に応じたレベル別授業で、初めて海外に行く方にも最適です。
- 学部によっては、所定の要件を満たすことで単位の認定も可能です。



過去3年間の参加者数のうち
1・2年生の割合

83%

※派遣留学制度、短期語学研修、国際ボランティア・インターンシッププログラムについては、新型コロナウイルス感染症の状況次第で、オンラインを活用して実施する可能性もあります。

国際ボランティア・インターンシッププログラム

【募集時期】夏季：5月頃 春季：10月頃

夏季 (8～9月) および春季 (2～3月) 休暇中に実施される海外でのボランティア・インターンシッププログラムです。文化や言語、働き方の違いを学ぶことで、海外へチャレンジする学生を育てます。過去の派遣先はベトナム、フィリピン、ルーマニア、アメリカ、マレーシアなどです。

Point

- プログラム参加費や宿泊費など、参加にかかる費用の一部を大学が負担します。
- 学部によっては、所定の要件を満たすことで単位の認定も可能です。



いつかネパールでホテルを開業したい

ゴータム 真似沙さん

経営学部経営学科4年

父はネパール人、母は日本人です。北海道出身ですが、幼少期はネパールで暮らし、その後、複数の国に滞在したことがあります。大学入学前から海外に興味を持ち、英語の勉強にも継続的に取り組んできました。

高校時代に見た映画で、自分のやりたいことを形にして働いている女性経営者の姿に憧れを抱きました。それをきっかけに経営学を学ぼうと、法政大学経営学部に進学。のびのび留学できるのは学生時代しかないと思い、1年生の頃から「法政グローバルデイ」や「G ラウンジ」を積極的に活用して情報を集め、文部科学省が展開する「トビタテ!留学 JAPAN」を利用して、観光業を学ぶためにネパールに留学しました。

留学先では、ツアー企画を手掛けるベンチャー企業と現地でも有名な長い歴史のあるホテルで、短期インターンシップに挑戦しました。どちらのインターンシップ先でも、これまで磨いてきた英語力を駆使して、貴重な経験を積むことが出来ました。当初は、ネパールと日本の文化や価値観の違いに驚きましたが、「日本での当たり前は、現地の当たり前ではない」と意識を変えることで、徐々に適応することができました。

自分で留学の内容を企画する「トビタテ!留学 JAPAN」を利用したことで、普通の留学では味わえない体験ができ、自分の財産となりました。卒業後は、国内のIT(情報技術)企業に就職する予定です。「いつかネパールでホテルを開業すること」を目標に、これからも語学力や国際経験を磨いていきます。



フィリピンから移住してきて日本で得たもの

ボニファシオ レイニアさん

グローバル教養学部グローバル教養学科3年

16歳までフィリピンのマニラで育ち、高校卒業後には現地大学への進学も決まっていたのですが、日本で長年働いていた母の要望もあって、家族全員で日本に移住することになりました。

すでにフィリピンで高校を卒業していましたが、1年間日本語の勉強をした後に、改めて東京都立国際高等学校に進学。高校には私と同じように海外から移住してきた人も多くいました。育ってきた環境や文化が異なる彼らと交流することは、刺激的で非常に楽しく、充実した高校生活を過ごすことができました。大学に進学する際にも、同じように多種多様な文化や言語、価値観を持つ学生がいる環境に身を置きたいと考えて、法政大学グローバル教養学部(GIS)を選びました。

入学後に、グローバル教育センターからの案内を受けて、ベトナム人学生との交流会に参加。自信はありませんでしたが、お気に入りの神社や新宿の風景、ラーメンを撮影した写真を使って、日本の魅力を紹介しました。「今すぐに日本に行きたい!」と言ってくれる学生が出るほど参加者の反応は上々でした。この経験によって違う国の人と、お互いの文化に対して理解を深め合うことが楽しくなり、その後も積極的に交流会に参加するようになりました。

これからも、グローバル教育センターが提供するプログラムを通して、学内外にいる多様な文化・価値観を持つ学生たちとの交流を続けたいです。そして、グローバルな視点や知識を養い、世界を舞台に活躍できる人間になりたいと考えています。



各種プログラムに参加した 在学生・卒業生の声

グローバル教育センターのプログラムを活用し、多様な人と交流することで、グローバルな視点や知識が身に付いたという学生が多くいます。
ここでは、プログラムに参加した在学生・卒業生の声を紹介します。

国を問わず多くの人とつながりたい

関口 宗哉さん

社会学部メディア社会学科4年

私の国際体験は大学3年次に、学内の国際インターンシッププログラムを通じてルーマニアの広告会社で働いた時から始まります。それまで海外経験が乏しかった私にとって、ルーマニアでの1カ月間は非常に密度の濃い体験で、国を問わず多くの人とつながりたいという思いが強くなりました。

大学4年次は新型コロナウイルス感染症の影響で海外に赴く機会がありませんでしたが、その間も海外の大学が主催するオンラインのイベントに参加したり、在日外国人の生活サポートを行うボランティア活動に携わったりしていました。

現在、派遣留学制度を利用して米国ウェストチェスター大学に留学に来ています。将来、メディアに携わる仕事がしたいので、留学先では広告や映像に関する授業を受講しています。予習や課題の多さに圧倒される日々ですが、友人にも恵まれ、充実した生活を送ることができています。

日本以外の国を知らなかった私にとって、ルーマニアや米国での体験は、人生を変えるきっかけとなりました。卒業後はその経験を生かし、海外の映像会社で働きたいと思っています。



インターンメンバーと、ルーマニアで。左から3番目が関口さん



ウェストチェスター大学の友人と。右端が関口さん

専門知識を身に付け、ロンドン大学大学院へ

中 麗子さん

2018年度文学部英文学科卒業生

法政大学に在学中は、語学留学や国際交流など本当に多くのグローバルな経験をさせていただきました。その中でも、卒業後の進路に特に大きく影響を与えた経験は二つあります。

一つ目は、米国のテキサス州のベイラー大学で1カ月間の国際インターンシッププログラムに参加したこと。必須課題として実施したキリスト教に関する社会調査を通して、キリスト教徒の学生たちにインタビューをしたり、教会でフィールドワークを行ったりしたことはとても刺激的な経験でした。

二つ目は、英国のリーズ大学で1年間の派遣留学をしたことです。ベイラー大学で社会調査に興味を持った私は、リーズ大学で社会学を専攻し、人種差別やメディア表象に関する知識を深めました。社会調査法のコースでは、学生のSNS使用に関する研究計画書をつくり、それが法政大学の卒論研究の基となりました。卒業後は、SNSやデジタルメディア全般に関してより深く学ぶためにロンドン大学大学院に進学しました。

ベイラー大学で社会調査の楽しさを知り、リーズ大学で社会学の専門知識を身に付けたことが、ロンドン大学大学院への進学につながったのだと思います。



リーズ大学留学中、友人と食事。右から3番目が中さん



ロンドン大学大学院留学中、友人と。右端が中さん

国際教育プログラムにご興味のある方は、グローバル教育センターウェブサイトをご覧ください。

<https://www.global.hosei.ac.jp/>



2021年度 就職内定者オンライン座談会

選考過程の大半がオンライン化 自発的な行動と情報収集がカギ

2020年度に引き続き、選考過程の大半がオンライン化した2021年度就職活動（以下、就活）。コロナ禍という不安な状況の中で、希望の企業から内定を勝ち取った学部4年生に、就活の進め方やキャリアセンターを活用する方法などを話してもらいました。



「人との出会いで刺激を受けながら、心からやりたいと思えることを見つけてください」

——Nakayama Yumiko



「就職活動は、自分自身を改めて見つめ直し、理解を深められるいい機会でした」

——Suzuki Momoka



「困ったことがあれば、キャリアセンターは全力でサポートします」

——Shimizu Yusuke



CAREER CENTER STAFF

「共に戦う仲間が存在があれば、気持ちが楽になると思います」

——Nagai Hiroki



2年前のオープンキャンパスで私が案内した高校生が今年度入学してきて、スタッフ側の仲間になってくれたことです。一生懸命に取り組んだ成果が得られたようで、感慨深いです。

永井…今まで経験したことのないチャレンジをしたくて、2年次の春学期に学部のSA（スタディ・アプロード）に参加し、半年間カナダに留学しました。当時TOEICの点数は275点。留学先の先生に「君の英語は何を言っているのか分からない」と指摘され、負けず嫌いの気持ちに火がついて勉強しました。最終的には、クラス代表としてプレゼンテーション大会で発表するまでに英語が上達し、TOEICの点数を925点まで上げることができました。

中山…私は5歳頃からずっとラグビーに夢中で、大学入学後も工体連ラグビー部に入学しました。プレーヤーとして練習に参加しつつ、チームを縁の下で支えたいと思い、主務を引き受けてチームの運営にも携わっていました。機械工学の研究との両立で忙しい日々でしたが、どちらも好きなことなので苦には感じず、充実した学生生活を送ることができたと思っています。

——就職を考えるようになったのは、どのくらいの時期からですか。

鈴木…3年次の5月頃からです。最初の緊急事態宣言が発令された時期で、これから就職が厳しくなるかもしれないと不安になり、少しでも早く活動を始めようと思いました。まずは気になる企業の夏

のインターンシップに参加してみようと、エントリーシート（以下、ES）の作成に取り掛かりました。

永井…僕も同じく、夏のインターンシップを意識して、3年次の5月頃から活動を始めました。4歳上の兄が、就活を経験した先輩として多くのアドバイスをしてくれて助かりました。自己分析をどのように深めるか、どのようにESを書けば自分らしさをアピールできるか、細かく相談に乗ってもらいました。

中山…私は何も分からなかったのですが、まずキャリアセンターのオンライン相談に申し込みました。3年次の6月頃です。キャリアセンターの方は親身になって相談に乗ってくれたり、企業選びのアドバイスなどもしてくれました。視野が広がったと思います。あとは、自分に合う業界や職種を探すために、できるだけインターンシップを経験しようと、ESをこまめに出すようにしていました。

清水…2020年から2021年にかけては選考過程のほとんどがオンラインでの実施となりました。授業などでウェブ会議ツールを使い慣れたことから、オンライン選考への抵抗感は前年度より減っていました。やはり企業の雰囲気を感じ取る接点が変わり、企業研究を深めることは難しかったようです。逆に、オンライン化で物理的距離がなくなった結果、インターンシップに参加できる企業が増え、説明会や選考のスケジュールが組みやすくなるなど、新たな機会が創出されたという面もあります。

オンラインで効率良く 情報収集や対策講座を受講

——キャリアセンターはどのように利用しましたか。

鈴木…夏のインターンシップ選考があまりうまくいかなかったため、キャリア就職システムに掲載されている先輩方の体験談を参考に、とにかく情報を集めました。9月ぐらいから、キャリアセンターの方にも相談するようになりました。親身になって対応してくださるので、ずっと相談していました。

永井…12月頃からは面接に慣れておきたかったので、毎日同じ時間に個別相談を利用して、面接の練習を続けていました。のべ50回以上はお願いしたと思います。

中山…本命は三菱ケミカルと狙いを定めていたので、選考を突破するためにはどうしたらいいか、実践的な対策がしたくて、本選考前にはかなりお世話になりました。技術職は、自分が手掛けてきた研究内容をプレゼンテーションする「技術面接」があるので、自分の説明が分かりやすく伝わるか、キャリアセンターの方を相手に練習して、気になるところを改善していききました。

——キャリアセンター主催の講座などは利用しましたか。

鈴木…SPI対策の講座を視聴して、模擬テストにも挑戦しました。企業説明会や質疑応答のできる座談会などにも、時間が合えば参加していました。

永井…夏頃になるとキャリアセンター主

コロナ禍の不安から
就活の早期化の傾向が強まる

——内定先の企業で働こうと、決めた理由を教えてください。

鈴木…お客さまに近い立場で仕事したいと思い、営業職を志望して、小松製作所から内定をいただきました。積極的にグローバル展開しながら、女性の活躍の場を広げる取り組みも意欲的に行っている企業で、男女差を意識することなく平等にチャンスが与えられていることに、大きな魅力を感じています。

永井…総合職採用としてNTTドコモから内定をいただきました。規模の大きなビジネスを手掛けてみたかったので、他の業界にもアンテナを張りましたが、社会的に影響のある通信分野で自分の力を試してみたいと思うようになりました。

中山…内定先は、三菱ケミカルです。インターンシップに参加した際に、和気あいあいとした雰囲気やフラットな関係性が心地良く、「この会社で働きたい」と熱望するようになりました。大学で学んだ専門知識を生かしたかったので、希望通りの設備技術職で内定をいただけてうれしいです。

——学生時代にはどのようなことに力を入れていたとアピールしましたか。

鈴木…2年次から3年間、市ヶ谷オープンキャンパスのスタッフとして、受験生に大学の魅力を伝える広報活動に取り組んでいました。一番印象的だったことは、

催の学内企業説明会などがオンラインで開催されていたので、朝からスケジュールを組みながら話を聞いたりしていました。

清水…2020年は、キャリアセンター主催の就職支援行事ほとんどがオンライン開催となりました。学内説明会とし



清水 悠輔さん
Shimizu Yusuke

キャリアセンター 市ヶ谷事務課
就職支援・研修担当



中山 裕美子さん
Nakayama Yumiko

理工学部機械工学科
内定先:三菱ケミカル株式会社



永井 宏樹さん
Nagai Hiroki

経済学部経済学科
内定先:株式会社 NTTドコモ



鈴木 桃香さん
Suzuki Momoka

経営学部経営戦略学科
内定先:株式会社小松製作所

キャリアセンターを有効活用しよう

1

キャリアセンターに 相談しよう

個別相談を通して、具体的な就職活動の進め方や面接のアドバイスなどを行っています。キャリア形成や就職活動に関するさまざまな悩みごとについて、スタッフが相談に応じますので、一人で悩まず、気軽に相談してください。

個別相談は事前予約制となります。キャリアセンターの利用方法はキャンパスによって異なるため、開室時間および個別相談の申し込み手順は、キャリアセンターのウェブサイトよりご確認ください。

※新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、キャリアセンターの利用方法は変更になる場合があります。



開室時間、個別相談

<https://www.hosei.ac.jp/careercenter/riyo/heikan/>

2

キャリアセンターのウェブサイトから 各種情報を入手しよう

キャリアセンターのウェブサイトでは、就職活動支援のための情報を提供している他、行事のお知らせなどを案内しています。

●卒業生訪問の申請

卒業生の情報の閲覧と訪問申請が可能です。メール申請も可能です。申請の手順は、キャンパスごとに異なるため、詳しくはウェブサイトをご確認ください。

●キャリア就職システムの閲覧

「キャリア就職システム」は、キャリア支援と就職活動をサポートするための情報共有システムです。2007年度以降の先輩の就職活動報告など、在学生のみが閲覧できる貴重な情報が公開されています。



キャリア就職システム

<https://www.as.hosei.ac.jp/kyomu/index.jsp>

3

就職支援行事に 参加してみよう

キャリアセンターでは、年間を通じて数多くの就職支援行事を開催しています。現在ではほとんどの講座がオンラインで開催されています。決められた時間に(生)配信するオンラインライブ形式以外にも、動画を繰り返し視聴できるオンデマンド形式の講座もあります。特定の学部を指定したガイダンスや、理系学生向け、公務員志望者向け、1・2年生向けなど、対象者を絞ったプログラムなども実施しています。今後さまざまな就職支援行事を開催していきます。今後開催される行事に関しては、キャリアセンターのウェブサイトをご確認ください。



キャリアセンター

<https://www.hosei.ac.jp/careercenter/>

キャリアセンター主催の2021年度就職支援行事（掲載は一部抜粋、12月以降は予定です。）

実施時期	行事名	対象
4月	新入生対象キャリアセンターガイダンス	1年
4月	第1回就職ガイダンス・インターンシップガイダンス	全学年
4～5月	エントリーシート&面接対策講座（基礎編）（合計3回実施）	全学年
4～5月	エントリーシート講座（実践編）（合計3回実施）	全学年
4～5月	面接講座（実践編）	全学年
5月	マナー講座	全学年
5月	グループディスカッション講座（合計3回実施）	全学年
5月	コロナ禍における大学プログラムの就職活動への活用法	全学年
5～6月	筆記試験対策講座（合計3回実施）	全学年
5～6月	業界仕事研究講座（合計3回実施）	全学年
5～6月	就活生が知らない超優良企業講座（合計3回実施）	全学年
6月	業界別！エントリーシート・面接対策講座（合計3回実施）	全学年
6～7月	キャリアセンター LIVE!①～⑥（全6回）	全学年
6～7月	業界・職種セミナー（分野別に8回実施）	全学年
10月	【小金井】第2回就職ガイダンス①～③（全3回）	学部3年・修士1年
10月	【市ヶ谷・多摩】第2回就職ガイダンス①～③（全3回）	学部3年・修士1年
10月	就職活動まとめ講座（対策別に3回実施）	学部3年・修士1年
10月	WEB面接・動画選考対策講座	学部1～3年・修士1年
10月	先輩から学ぶ！就職活動のポイント	学部3年・修士1年
10月	筆記試験対策講座（合計3回実施）	学部3年・修士1年
10月	動画選考トレーニング	学部3年・修士1年

実施時期	行事名	対象
10～11月	大質問会①～②（全2回）	学部3年・修士1年
11月	（新）早期選考対策講座（業界別に3回実施）	学部3年・修士1年
11月	OB・OG訪問のキノ	全学年
11月	インターンシップ失敗談発表会	学部3年・修士1年
11月	学科・専攻別就職戦略講座（分野別に4回実施）	学部3年・修士1年
11月	学校推薦対策講座（分野別に3回実施）	学部3年・修士1年
11月	法政BPC OB・OG訪問体験会（合計2回実施）	全学年
12月	公務員内定者座談会	全学年
12月	社員座談会（特別版）	全学年
12月	今知りたい、インターンシップと仕事研究のコト	学部1～2年
12月	理系公務員座談会	全学年
12月	他大学合同オンライン模擬面接会	学部3年・修士1年
5～12月	インターンシップ体験会・社員座談会（合計40社程度実施予定）	全学年
1月	キャリアセンター LIVE! \大質問大会／	学部3年・修士1年
1月	【小金井】第3回就職ガイダンス①～③（全3回予定）	学部3年・修士1年
1月	【市ヶ谷・多摩】第3回就職ガイダンス①～③（全3回予定）	学部3年・修士1年
2～3月	学内企業セミナー①～⑥（全6回予定）	学部3年・修士1年
3月	模擬面接会（合計2回予定）	学部3年・修士1年
3月	キャリアセンター LIVE! \大質問大会／	学部3年・修士1年
3月	低学年支援（文系）	学部1～2年
10～3月	体験型就職活動準備講座「今やる」シリーズ	学部3年・修士1年



2年次から4年次まで市ヶ谷オープンキャンパスのスタッフとして活動していた鈴木桃香さん。活動を通して、人の役に立つことの大切さと喜びを実感した。

ウェブサイトをなどで常時発信している他、学生へお知らせメールも配信しているのので、目を通すようにしていただきたいです。

**不安はあつて当たり前
家族や友人の支えが力に**

——選考過程で、苦手意識があつたり、うまく行かなかつたりしたことなどはありますか。

鈴木…個別の面接では自分の意見をしっかりと伝えられていたのですが、グループディスカッションは不得意でした。周りの雰囲気から飲まれてしまい、自分らしさを発揮できなかったと思います。

永井…僕はSPIなどのテスト勉強に苦手意識があつて対策が遅れてしまい、逃してしまつた選考もありました。後回しにせずに、早めに取り掛かっておけばよかったと思つています。

中山…私は人と話すのが苦手で、自分の思つてゐることの半分ぐらいいしか伝えられていないと感じていました。事前に質問を想定し、それに対する答えを念入りに準備するようにしてゐました。

——そうした不安を克服するために、工夫したことはありますか。

鈴木…グループディスカッションの練習には、就活生向けの*₁コミュニケーションアプリを活用しました。初対面の人とグループディスカッションすることで、より本番に近い環境を体験することができ、実際の選考でも、徐々に自分から発言できるようになっていきました。

永井…僕も就活生向けのアプリは活用し

て、複数の企業の方を招待して話を聞く機会も設けたのですが、一方通行の情報提供になりがちなところがあつたので、2020年からは社員座談会のような形で学生からも質問ができる機会も増やしています。

——講座などの情報はどのように入手しましたか。

鈴木…キャリアセンターのウェブサイトを、欠かさずチェックしました。法政ポータルサイト「Hoppin」にもキャリアセンターの情報が頻繁に更新されていくので、こまめに確認してゐました。

永井…キャリアセンターのLINEの公式アカウントを友だち登録しておくことで、情報がこまめに送られてきます。

清水…*₂法政BPCに協力していただき、社会人の方と交流する機会をできるだけ設けています。2021年からは、自由に講座に参加できるように3キャンパス間での行事の共通化も進めています。こうしたキャリアセンターの情報は、大学

ました。気になる企業の社員の方や一つの学年の内定者から話を聞かせていただくきっかけになったので、利用してよかったです。

清水…最近では、アプリの利用を推奨している企業もあります。アプリを活用する際はトラブルなどに十分注意しつつ、情報を得る貴重な手段として、上手に活用するようにしてください。もちろん、キャリアセンターでも、卒業生へのコンタクトや交流の機会をサポートしていますので、ご相談ください。

——就職活動中、家族や友人など周りからのサポートはどのように感じていましたか。

鈴木…コロナ禍で友人と直接会う機会も減り、周囲の就活の状況を把握しづらかったこともあり、焦りや不安は感じていました。そこで、親しい友人とはまめに連絡を取り合うことで、励みにしていました。両親、特に父は社会人の先輩として視野を広げるアドバイスをしてくれて、うれしかったです。

永井…友人たちと、近況報告や愚痴も含めて、オンライン上で気兼ねなく語り



永井宏樹さんは、カナダへのSA留学を機に、英語を猛勉強。留学先ではクラス代表として学内プレゼンテーションで発表するまでに上達した。

合っていました。つらい時期と一緒に乗り切つたと思つています。就活中、ずつと伴走してくれた、兄の存在もとても大きかったです。

中山…不安をため込まないように、部活の先輩などに話を聞いてもらつて吐き出すようにしてゐました。それがストレス発散につながつてゐたように思います。

清水…就職活動は、早めに動くことを意識していただければ、準備に時間をかけることができ、心の余裕も生まれます。就活中は不安やストレスも多くなりしますが、一人で抱え込まないようにしていただきたいです。困ったことがあれば全力でサポートいたしますので、キャリアセンターを活用して、後悔のない就活に取り組んでください。ご家族の皆さまも温かい目で見守っていただけたらと思います。



5歳頃から続けているラグビーが大好きで、工体連ラグビー部に入学した中山裕美子さん。プレーヤーとして練習に参加するだけでなく、主務としてもチームを支えた。

*₁法政BPC
正式名称は「法政ビジネスパートナーズコミュニケーション」。学生へのキャリア形成支援と、卒業生同士の交流を目的とした企業人コミュニケーションを卒業した若手、中堅の社会人から構成されている。

*₂コミュニケーションアプリ
卒業生訪問の相手探しや、就活生同士の情報共有など、就活に関する交流を目的としたネットサービス。スマートフォンで利用できるアプリも提供されている。



HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

授業にサークルにアルバイト、 学生時代の経験はすべて糧になる

株式会社 NTT ドコモ サービスデザイン部アプリケーション開発担当

佐々木 千枝さん

入社3年目で、株式会社NTTドコモのスマートフォン新料金プラン「ahamo（アハモ）」のサービス設計の担当に抜てきされた佐々木千枝さん。仕事においては、情報科学部の授業で得た知識はもちろん、課外活動やアルバイトで磨いたコミュニケーション能力が大いに役立っていると言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

数百万人が目にした
ウェブサイトの開発を担当

2021年3月末に提供を開始した「ahamo」は、20代をメインターゲットにしたシンプルなお料金をプランで、契約や手続きをウェブサイトで完結するのが特徴です。サービスの開発も20代の若手社員を中心に進めることになり、私はウェブサイトの開発を担当しました。

担当が決まった時は、大きなプロジェクトだったので驚き半分うれしさ半分でしたが、入社数年で自分の目線を仕事に生かせる機会はそうないので、楽しんで取り組もうと思いました。情報の分かりやすさや、操作のしやすさについては社内のメンバーや制作会社と議論を重ねました。また、デザインは従来の「ドコモ赤」のイメージを踏襲せず、20代にアピールするカラフルで躍動感のあるものにしていきます。



ダンスサークル「小金井Groovy(グルービー)」ではハウスダンスに打ち込み、3キャンパスのダンスサークルの合同イベントの運営なども行った(前列右端が佐々木さん)

その一方で、同じ20代とはいえ、私たちの感覚や意見がそのまま通用するとは限りません。時間が限られる中、インタビューや調査を通じて確認や裏付けを取ったり、ユーザーテストのフィードバックを反映させたりしてブラッシュアップを図りました。

6月末時点のahamoの契約数は約180万件。自分が考えて作ったものがそれだけ多くの人の目に触れ、利用されているのはとてもうれしいです。

多くの知識と経験を得られた
情報科学部での学び

高校生の時、好きなアーティストのライブで、ボタンで操作するイメージしかなかった音響や照明をプログラムでコントロールできると知り、興味が湧きました。そのため、エンターテインメントに活用されるセンサーなどに

ついて学びたいと考え、情報科学部デジタルメディア学科に進学しました。

情報科学部の授業で面白かったのが、研究室の体験入門のような「情報科学プロジェクト」です。例えば、「自走式掃除機のプログラミング」というテーマで、1〜3年生がそれぞれの興味とレベルに応じたものを半年間かけて仕上げます。私は前進させるのが精いっぱいでしたが、サポートしてくれた大学院生は3台の掃除機で三重奏のように音を鳴らしていて、驚きました。4年次は廣津登志夫教授の研究室で、センサーを利用して、踊ったダンスが音楽と同期しているかどうかを確認できるプログラムに取り組みました。

就職に際しては、プログラミングそのものに携わるのではなく、専門知識を生かしてサービスの創出や提供に関わる仕事をしたいと考えました。自分でプログラムを書き、物を動かす経験ができた情報科学部の学びは、さまざまな場面で私の強みとなっています。

知らぬ間に社会勉強もしていた
課外活動とアルバイト

学生時代は、何にでもチャレンジできる期間だと思います。授業と課題で十分忙しい中、それだけで終わるのはもったいない気がして、ダンスサークルにアルバイトにと、毎日朝から晩ま

で忙しく過ごしていました。

もう一つ、私の大学生活をより実り多きものにしてくれたのが、情報科学部「ガラス箱オフィスアワーセンター(GBC)」の活動です。学生アシスタントは、学生の相談に乗るというよりは、一緒に考えるという存在で、先生方と話せる機会も多く、人と話すことでさまざまな考え方に触れられ、悩みは一人で抱え込むより話した方が解決策を見つけやすいことを学びました。

先生と学生が集うイベントを開催することもあり、企画からパンフレット作り、参加の呼び掛け、買い出しまで、何が必要かを自分で考えて行動しました。今振り返ると、規模は小さいけれど会社の仕事に通じるものがあつたと思います。パレル量販店のアルバイトでは、開店前の品出しという表から見えない作業があつて、そこにも工夫の余地があると知ったり、サークルで会計を担当して、組織の運営に携わったり、意識はしていませんでしたが、課外活動が社会勉強にもなっていました。

仕事をうまく進めるには
コミュニケーション能力が大切

現在の部署の仕事は、社内外の多くの人と一緒に進めていく仕事が多く、コミュニケーション能力が求められま



Sasaki Chie

1995年東京都生まれ。2014年情報科学部デジタルメディア学科に入学。2018年3月卒業後、株式会社NTTドコモに入社。サービスデザイン部で企業のインターネットやウェブサービスの開発・管理などに携わる。

※ガラス箱オフィスアワーセンター(GBC):教員と学生アシスタントが学生の相談に乗ったり、勉強会を開いたりするフリースペース。2009年度に開設、2019年度「自由を生き抜く実践知大賞」を受賞



たくみ

匠と媒体——古典の継承

国際文化学部国際文化学科

准教授

深谷 公宣

匠の不在

日本のものづくりでは職人の減少により、技の継承が危機的な課題となっています。私の研究分野である文学や映画にも、同じ兆候が見えます。作家が「職人」だとすると、数自体は減っていないかもしれませんが。しかし熟練した技を持つ「匠」はどうでしょう。夏目漱石、芥川龍之介、黒澤明、小津安二郎、溝口健二……今、このような匠をどれだけ見つけることができるでしょうか。

文学や映画が刺激する人々の想像力は、社会を導く原動力です。匠の不在は想像力を枯渇させ、社会の停滞をもたらします。特に現代は、この傾向が顕著です。

古典の継承

匠の不在を案ずる前に大学がすべきこ

関わっているかを検証しています。授業でも、できるだけ古典に触れるようにしています。大学が、古典に取り組む場としての役割をまだ失っていないと思うからです。

修業時代

私自身、古典に浸ることができたのは学生時代でした。映画に関しては、学部1年生の春に岩波ホールで観た『希望の樹』（テンギズ・アブラゼ監督）に啓発され、大学図書館のAVルームで手に取った『芙蓉鎮』（謝晋監督）、『インドへの道』（デビッド・リーン監督）が、映画と社会とのつながりを教えてくれました。現在開いているゼミ「映画からみる社会」は、映画作品の鑑賞と批評を通して社会を見る目とメディア・リテラシーを養うもので、根底には学生時代の経験があります。

先に触れた作家や学者をはじめとする文学への関心は、指導を仰いだ先生方を經由しています。カルヴィーノの『なぜ古典を読むのか』が目に残ったのは、訳者が須賀敦子先生だったからです。学部時代、授業に出たり、研究室にお邪魔して文学談義に付き合っていたいだいました。

大学院の指導教員であった高柳俊一先生は、T・S・エリオット研究の最前線におられました。カトリックの神父としてキリスト教神学の豊富な知識を有する

とは何でしょうか。最も単純な実践として、古典の継承があります。

古典（classic）とは単に古い作品のことではなく、良きものとして分類され（classified）、評価の定まったものをいいます。西洋文学の領域でも、古典の意義が説かれてきました。近代という時代に特徴的な懐疑主義に疑問を感じた詩人T・S・エリオットは、ある時期から古典主義を掲げました。イタリアの小説家イタロ・カルヴィーノは『なぜ古典を読むのか』で古典文学作品の面白さを伝えようとしました。カナダの英文学者ノースロップ・フライが『批評の解剖』で文学ジャンルの傾向を分析したのも、古典の継承手段です。ユダヤ系の英文学者ハロルド・ブルームは『The Western Canon（西洋の正典）』で西洋文学の匠について論じ、同じくユダ

一方、現代の批評理論にも通じ、当時流行の残り火をともしていたポストモダンズムやポスト構造主義に目配りしながら、それとは一定の距離をとるブルームの『西洋の正典』、フライの『神話とメタファー』、スタイナーの『真の存在』をテキストに、講義をされていました。予習や講義のたびにメモを書き込んだこの3冊は、今も手元にあります（『神話とメタファー』は先生により翻訳され、講義の数年後、法政大学出版局から刊行）。シェイクスピア研究者であり、翻訳家、かつ演劇集団「円」の演出家でもあった安西徹雄先生は、博士後期課程の教育プログラムで学生に文学理論書を読ませる課題を課していました。私が指定された課題図書は、エーリヒ・アウエルバッハ『ミメシス』、E・R・クルツイウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』、A・W・シュレーゲル『Über dramatische Kunst und Literatur（劇芸術・劇文学講義）』、レイモンド・ウィリアムズ『Drama from Ibsen to Beckett（イブセンからブレヒトまでの演劇）』、スタイナー『悲劇の死』でした。安西先生の指導を受けた1年間、塾講師のアルバイトに向かう前に喫茶店で、課題の5冊を原書や英訳でせっせと読み、重要箇所をノートに記録していきしました。そのノートは今も研究や授業の養分として、随時参照しています。

3人の先生方は、こうせよ、ああせよと一切言わず、重要な古典の存在を示し

ヤ系の批評家ジョージ・スタイナーはハーバード大学の招待講演（ノートン講義）で師弟の様態を分析してみせました。「古典の継承」というと、「保守的」

「役に立たない」「かび臭い」という反応が返ってきます。ある面ではそのとおりです。けれども、イデオロギーや社会通念にとらわれすぎるのも考えものです。古代ギリシアの彫刻がなければミケランジェロのダビデ像はなく、シェイクスピアなしにゲーテの活躍はなかった。古典こそが新しい文化を創り出すのです。

私も近年は、古典の継承をモチーフとした研究・教育を進めています。専門はアイルランド出身の作家、サミュエル・ベケットですが、20世紀半ばに前衛的と目されたベケットも、ダンテやジェイムズ・ジョイスなど、先人から影響を受けているため、その影響が彼の美学にどう

てくださっただけでしたが、私にはそれで十分でした。研究の「匠」は、古典を継承する優れた「媒体」でもありました。

匠と媒体

注目すべきは、3人とも同時代の文化環境に深く関与していたことです。須賀先生はエッセイストとして日本の、そして吉本ばななの紹介者として（それだけではないのですが）イタリアの文学界にも一石を投じていました。また前述のとおり、高柳先生は最先端の批評理論を誰よりもよく理解され、安西先生は舞台の現場で演出を手掛けていました。古典から得た知を同時代に開く感性の鋭さも、研究の匠が優れた媒体であるゆえんです。

古典は時流の影響を受けずに屹立し、かつ、同時代に呼び掛けます。カルヴィーノは述べています。「もつとも相容れない種類の時事問題がすべてを覆っているときでさえ、BGMのようにささやきつづけるのが、古典だ」（須賀敦子訳『なぜ古典を読むのか』、河出書房新社、Kindle版）。

もしカルヴィーノが正しいとすれば、電子書籍や配信サービスなど新興の媒体で古典作品を鑑賞してみるのも、一興ではないでしょうか。現代社会の喧騒の中、斜め読みや流し見で目に留まった句や表現や映像が、社会の停滞を打破し、新しい地平を開くヒントになるかもしれません。

※（ ）内は筆者による題名



ESSAY

15学部の教員たちが、研究の世界をエッセー形式でご紹介します。



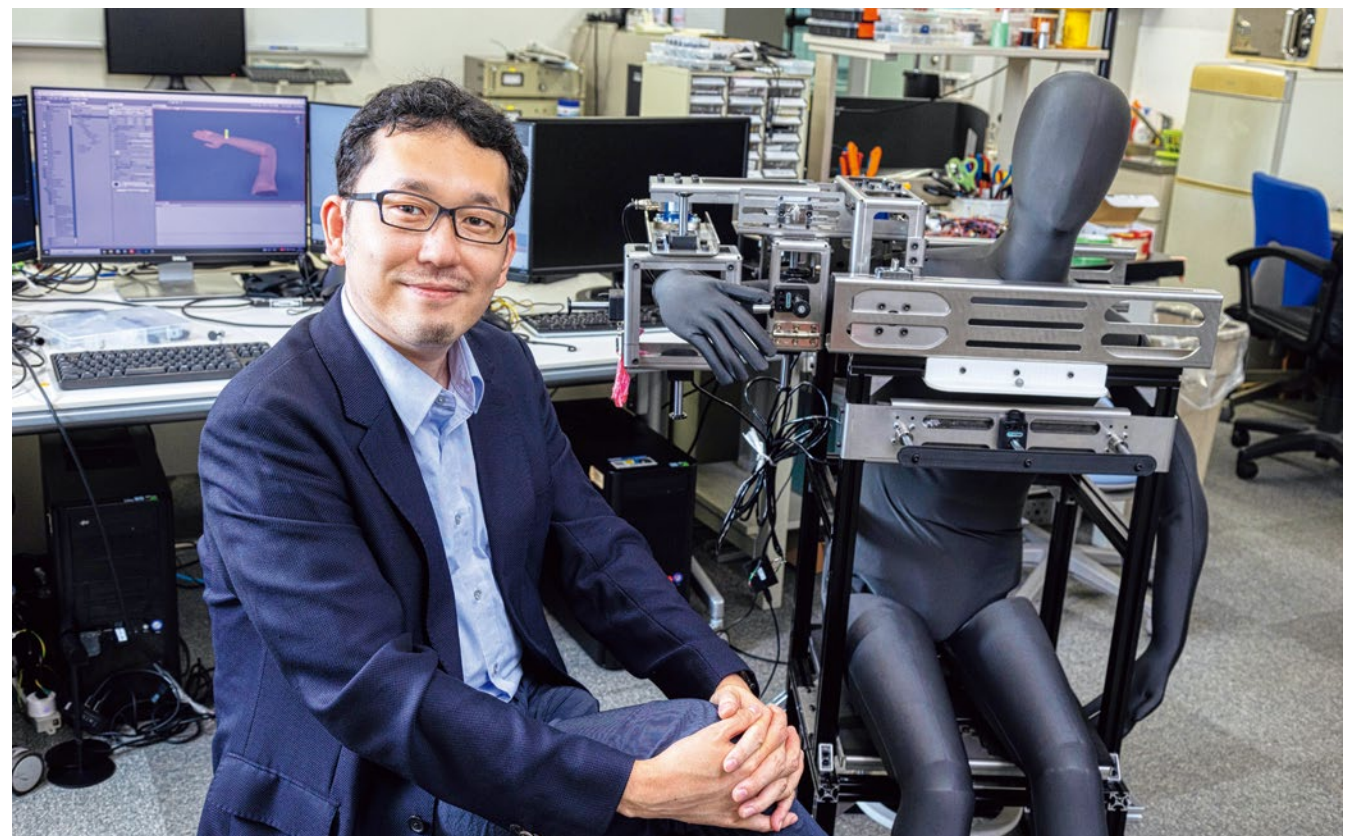
Fukaya Kiminori

1971年生まれ。上智大学比較文化学部（現・国際教養学部）卒業。同大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。富山大学専任講師、同准教授を経て、現職。専門は英語圏文学、フィルム・スタディーズ。論文に“The Early Beckett's Approach to Reality through a Textual Struggle with Rimbaud”（Journal of Beckett Studies. Vol. 26. Issue 2. Edinburgh University Press, 2017）、「ロバート・M・バーシング『禪とオートバイ修理技術』における幽霊の隠喩と文学的想像力」（東雅夫、下楠昌哉編『幻想と怪奇の英文学IV—変幻自在編』、2020年、春風社）など。

ロボット技術により、仮想現実を自由に動き回るような未来を創る

ロボット技術を人間の能力拡張や行動支援に役立てようと研究を続ける中村壮亮准教授。
コードレスで自動的に電源が供給されるような、電力インフラの研究にも取り組んでいます。

理工学部電気電子工学科 准教授 中村 壮亮



ロボットによる「人間拡張」と「人間支援」技術を追究

ロボット技術による「人間拡張」と「人間支援」の研究に取り組んでいます。分かりやすく言えば、ロボット技術を使って人間自身の能力を補完・強化するのが人間拡張であり、ロボットが人間の代わりに働き、人間の生活を支えるのが人間支援です。

人間拡張のテーマとして現在取り組んでいるのが、人間が動かないまま仮想現実の世界で動き回れるモーションレスVR（仮想現実）システムの実現です。具体的には、体に取り付けたセンサーで動かそうとする意図を感知し、実際に動いたかのような感覚を疑似的に生成させる方法を取っています。CGの映像でVR身体の動きを表現できても、体の感覚として違和感が残るのではと思われるかもしれません。難題ですが、筋肉の伸長から関節の角度を知覚するという人間の特性を踏まえ、振動などの外部刺激により筋肉の伸長を再現して一定の運動感覚を提示することに成功しています（図1）。

さらに、装置の稼働に欠かせない電力を自動で補う電力インフラの研究にも取り組んでいます。現実的な解決策として、コードレスでの全自動の電力供給と、人間支援で研究している自律

移動するロボットとの組み合わせを考えています。コードレスでの充電機能を備えたロボットが部屋中を移動しながら電気製品に電力を供給していく。掃除ロボットのように、生活空間をロボットが自由に動き回り、自動的に充電するイメージです（図2）。5年後ぐらいにプロトタイプを完成させ、研究室内にはケーブルが存在しないという環境にしてみたいですね。

自由に研究活動ができる
法政大学の文理融合に期待

学生の頃から、社会インフラを構築するような、スケールの大きな課題に取り組みたいという思いを抱き続けてきました。新規事業の企画開発への携わりやすさや風通しの良さを期待して、ベンチャー企業に勤めたこともありましたが、自分が望むような仕事を成し遂げるには、試行錯誤を繰り返し、時間をかけてじっくりと取り組む必要があることに気付き、大学の研究職を志すようになりました。

縁あって法政大学に着任し、理工学部の先生方の研究の多様性にとっても驚きました。自由な研究活動を奨励し、じっくりと研究に取り組みたいという私自身の希望もかなえてくれる環境に感謝しています。

それは理工学部だけでなく、他の学

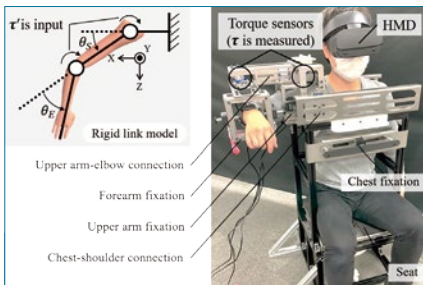


図1 腕部に取り付けるモーションレスVR装置。動かそうとする意図を読み取り、運動しているかのように脳内を錯覚させるための工夫が施されている

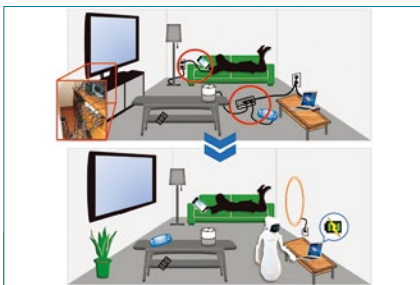


図2 自律移動ロボットにより、生活空間内の電力ケーブルが掃られるイメージ図。自律移動ロボットには無線給電機能と自動運転のコア技術を搭載



研究室の夏合宿では、半日かけて研究成果を発表し、その後はバーベキューや観光と、メリハリを付けた交流を心掛けている（写真は2018年撮影）

部も同様でしょう。日本では文系と理系を分けて考えてしまいがちですが、法政は15学部を擁する総合大学ですから、学部を横断して互いの専門性を用いて協力し合える研究は十分可能だと思います。私自身、スポーツ健康学部の泉重樹教授と共同で人間拡張の研究に取り組んだことがあります。三つのキャンパスが離れているため、難しい部分もありますが、今後の文理融合の実現に期待しています。

社会の仕組みを知り、
研究を通じて成長してほしい

学生を社会に送り出す教育者としては、モノづくりの技術を習得するだけではなく、一般教養やビジネス知識も身に付けてほしいと思っています。

市場原理、顧客心理などを意識すれば、どのような製品が売れるかという視点で考えられるようになります。売れる製品を作らなければいけないわけではありませんが、買いたいと思う人がいない製品は、社会実装されることはないでしょう。優れた製品を作り出したいという思いがあっても、研究資金は無限ではないので、コスト意識も必要です。私自身、社会に大きな影響力を与える仕事したいという思いで研究を続けているので、社会のニーズを知ることが大切だと認識しています。

Nakamura Sôsuke

1982年生まれ。東京大学工学部電気工学科卒業。東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士前期課程、同電気系工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。株式会社エリジオン、中央大学理工学部助教を経て、2016年より本学理工学部電気電子工学科専任講師に着任。2018年より同学部准教授に就任。現在に至る。

そのため、学生が取り組む研究も、まず目的思考で考えるように促しています。何を実現したいのか、それは人の役に立つのか。より多くの人に、よりニーズの高いものを作り出すという目的が最優先で、そのために手持ちの技術だけでは足りない部分は、技術の習得を図り、必要に応じて外部からの協力も得て実現を目指しています。また、学生のうちから社会と接点を持つ経験ができるように、企業と共同研究する機会を設けたり、企業の最前線で働く研究者を招き、話をしていたりしています。社会を知る人の声だけに説得力があります。



※プロトタイプ：製品化する前の試作品や原型。

「**躰道**（たいどう）」とは空手と体操競技を組み合わせたようなアクロバティックな動きが特徴の武道です」と説明してくれたのは、1年生の田牧さん。

「バック転や宙返りのような動きもあるので、自分にできるのか心配になりましたが、指導してくれる先輩方の教え方が丁寧で、サークル内の雰囲気もいいので、楽しく活動できています」と笑顔を見せます。

大会では、「型」の美しさを競う「法形（ほうけい）」、相手に技を当てて組手を行う「実戦」、敵に見立てた複数の脇役を1人の主役が倒す演武をチームで創作する「展開」という3種の競技が行われます。特に、ヒーローショーのように激しく立ち回る「展開」は、躰道特有の見応えある競技です。

「『創造、進化する武道』と位置付けられている躰道は、新しい武道だけに部員は初心者ばかりですが、いつの間にか夢中になっています」と語るのは須崎さん。「2年次に出場した全国学生躰道優勝大会の『団体実戦』という競技で、個人として初めて勝つことができた時は、自分の成長を感じられて感無量でした」とうれし思い出を振り返ります。

昇級審査に挑戦中の斎藤さんは、基

躰道部

アクロバティックな動きの「創造、進化する武道」で自らの成長を感じる

クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています



上段左から、大越美咲さん（国際文化学部国際文化学科4年／代表）、須崎夏帆さん（グローバル教養学部グローバル教養学科4年）、下段左から、斎藤佑生さん（法学部法律学科3年）、田牧詩乃さん（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科1年）



体力向上を目的とする夏合宿では、基本技の練習を重点的に強化している。2019年夏合宿での一枚。練習している技名は「変体卍（まんじ）蹴り」



2020年11月の大学祭では、1人の主役が、4人の脇役が仕掛ける攻撃をかわしながら仕留めていく「展開」を披露した



2021年6月、十分な感染症対策を講じた上で、1年半ぶりに開催された大会での一枚。新入部員にとっては思い出深いデビュー戦となった

礎的なことができるようになるまで、先輩たちが補助役として付けてくれるので、安心して練習できます。卒業生の方々の交流も盛んで、今はあまり会えていませんが、コロナ前は年末の締め稽古に集まってくれるなど、和気あいあいとしています」と活動の楽しさを語ります。

活動は週に4回。そのうち1回は、卒業生の監督から指導を受けています。「ウェブ会議ツールを使って、自宅でトレーニングする様子を見せ合うのは効果的な練習だと気がきました」と語るの代表の大越さん。自分の映像を他の人と比較しながら客観的に見られるので、先生方から指導された動きもまねしやすいとのこと。また「複数の他大学と合同練習会を開いて情報交換をすることができたのも、オンラインの活動ならではの思い出です」と、コロナ禍の制約も前向きに捉えます。

部員たちの共通する願いは、躰道の魅力を多くの人に知ってもらうこと。広報担当の斎藤さんを中心に稽古動画を作成したり、活動内容をSNS（交流サイト）で紹介するなど、知名度向上に努めています。「少しでも興味を持ったなら、ぜひ体験してみてください。歓迎します」と、全員が目を輝かせます。

地理学の観点から、経済をはじめとした社会科学や人文科学の領域にかけて、幅広いテーマに取り組んでいる伊藤達也教授ゼミ。SDGsに興味を持ち「自然環境の課題を解決に導くようなテーマに取り組んでみたい」と意欲的に語るの宮下さん。「機会があれば、水資源や環境問題を手掛けている伊藤先生のフィールドワークのお手伝いもしてみたい」と、好奇心をみなぎらせます。

3年生は初めての現地調査の準備を開始。今年には神奈川県「鎌倉」を対象に、4〜5人のグループに分かれて調査準備に取り組んでいます。例年は、夏合宿から現地調査の手法を実践的に学んでいましたが、2021年度もコロナ禍で夏合宿が中止となったため、秋学期に日帰りの現地調査を企画。その成果は、学期末に開催する報告会でまとめて発表する予定です。

4年生は、卒業論文の完成に向けて個々に調査を進めています。2019年から開始された「上海市でのごみ分別回収」をテーマとしたのは、中国人留学生であるSUN HANYIさん。ごみ分別に至るまでの背景や、上海と日本のごみの分別状況の比較なども考えています。今は中国に帰国するのは難しいので、上海に住む友人

文学部地理学科 伊藤達也教授ゼミ

地理学の観点から多彩なテーマに取り組み地域の現状や課題を見いだす

ゼミナール・研究室



前列左から、石川恵梨さん（4年ゼミ長）、伊藤達也教授、後列左から、SUN HANYI（ソン カンイ）さん（4年）、深町諒大さん（3年ゼミ長）、宮下由菜さん（3年） ※全員、文学部地理学科 ※撮影時のみマスクを外しています



4年生は卒論の進捗報告、3年生は現地調査をしてきた夏合宿。観光も、地理学の好奇心を育むのだという（写真は2018年撮影）



通常のゼミは感染対策を行いながら、3・4年生がともに学ぶ。この日は4年生が卒論の経過を報告し、先生からのコメントをもらった



2021年は、中止になったゼミ合宿の代わりに、ゼミ生が個々に研究成果を発表する中間発表会を開催。閉会後は花火大会で締めくくった

に協力してもらいながら、オンラインで聞き取り調査やアンケート調査などを進めています」と準備に余念がありません。

「ゼミでの学びから、常識をそのまま受け入れるのではなく、どのような根拠で結論が導かれたのかを調べたり、自分の言葉で自分の考えを言ったりできるようなりました」と語るの石川さん。選んだ卒論のテーマは「学生街としての神田駿河台の変遷」です。「まだ論点の絞り込みができていないので、文献を集めたり、調査手法を考えているところ」と慎重に進めています。そんな4年生たちの背中を押すように、伊藤教授は「1人の力だけで論文を完成させるのは難しい。学年を越えてお互いに助け合って刺激し合い、学生同士で成長していったほしいです」と語ります。

アジア圏にある新興国の経済発展に着目したのは深町さん。「もともとは農業国だったのに、外国資本の工場が建てられたことで、技術力を手に入れました。その変遷が興味深いと思っています」と語ります。将来は世界を巡りたいという夢を持ち、「ヨーロッパは環境政策が進んでいるので、最先端の知識を学び、日本に還元していきたい」と、来年度の留学の実現を目指しています。

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介しします。



ラグビー部

撮影場所：セナリオハウスフィールド三郷
(埼玉県三郷市)

撮影：鈴木範彦
集合写真：ラグビー部提供

ラグビー部は1924年に創部され、2024年に創立100周年を迎えます。関東大学リーグ戦ではグループ1部に所属しており、出場校最多の13回の優勝を誇ります。また、これまで大学選手権では第1回から優勝3回、準優勝5回、ベスト4入りを11回果たしました。今年度は、活動自粛により夏合宿が中止になるなど満足のいく練習を行うことができませんでしたが、主将を中心に一つ一つの勝利を積み重ねるべく「ONE TEAM」を作り上げています。今季は「LEAP(飛躍)」をスローガンとして、全国ベスト8を目標に部員一同、日々練習に励んでいます。

Message

「自由を生き抜く実践知」を
体現している
学生の声をお届けします。

「さまざまな視点に立って考える」 ことでより良い作品を作る

小金井オープンキャンパススタッフ代表
生命科学部応用植物科学科3年

Shimazaki Yuya

島崎 優也 さん

私たちオープンキャンパススタッフは、学生が主体となって高校生に法政大学の魅力を伝え、「最高のオープンキャンパス」と感じてもらうことを目標に企画・運営しています。全スタッフ一丸となって積極的に行動し、オープンキャンパスという1つの作品を作るこの団体が私は大好きです。コロナ禍で思うように学生生活を送ることができていない1・2年生にも「この団体が好きだ、いつまでも大切にしたい」という気持ちになってほしい、私は代表として居心地の良い環境づくりに力を入れました。

そんな環境づくりの壁となったのは、コロナ禍という状況でした。当時の感染状況では対面での練習や会議の実施は困難で、オープンキャンパスがどのように実施されるのかわかりませんでした。しかし、オープンキャンパスがどのような実施方式であっても、最も重要なことは、参加者に「大学の雰囲気や実際の学生生活を伝えること」だと考えていました。

そこで、オンライン上でのスタッフ間コミュニケーションに加え、後輩の1・2年生には、直接顔を合わせる機会を設けることで、少しで



も企画を充実させたいと考えました。職員の方とも綿密に相談を重ね、感染対策を十分に行い、対面での打ち合わせなども行いました。対面練習の場ではスタッフがなるべく多くの人と話せるように、グループ作りを工夫したりしました。

結果的にオープンキャンパスはオンラインでの実施となりましたが、来場者の満足度が高いオープンキャンパスを実施することができました。また、スタッフの継続率も95%を超えることができ、スタッフの充実度を高めることができたのではないかと思います。

代表という立場はとても「責任」を感じるものでしたが、学ぶこともたくさんありました。例えば、団体を引っ張っていくには「さまざまな視点に立って考えること」が必要だということです。自分の考えのみを押し通すのではなく、参加者の視点、スタッフの視点、教職員の視点で考えながら意見を聞くことの重要性を学びました。2021年度オープンキャンパスが成功したのも教職員の方々、共に活動するスタッフのみんなの支えがあったからです。本当にありがとうございました。



オープンキャンパス2021開催レポート

※オープンキャンパスに関する詳細はTOPICS(p.28)でも紹介しています。

<https://nyushi.hosei.ac.jp/event/oc>



後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

キャリアセンターから会員の皆さまへ

法政大学キャリアセンター事務部長

藤野 吉成

昨年から続くコロナ禍の影響により、就職状況は一変しました。企業の就職活動の主体が対面からリモートへと変化したのに対応し、本学では一連の就職活動の講演・イベントをオンラインや動画対応に切り替え、就職個別相談もウェブ面談と対面の両方に対応しています。また、OB・OG紹介もリモートで可能な体制にしたところ、コロナ禍前に比べ参加数が大幅に増えるというプラスの効果も出ております。

就職状況については、一部の業界や企業での採用の縮小や中止による影響もありますが、10月1日付の調査では、本学の学生内定保有率は全体で93・3%（昨年度同時期比プラス4・5%）、文系が93・0%（同プラス5・1%）、理系が94・9%（同マイナス0・1%）と健闘しております。

就職活動継続中の4年生については、一昨年から全員アンケートや電話調査で未内定者を把握後、希望者一人ひとりに就職支援を実施しております。未内定の学生は本学に不安だと思えますが、本学学生の採用に積極的な企業も多く、さまざまな方法や手段で就職内定を支援してまいります。就職活動で一番大事なのは、絶対に就職するという強い意志です。まだ、キャリアセンターを利用していただけないお子さまには、利用を促していただければと思います。

2022年度の就活生となる3年生には、個別相談で対応する他、3キャンパスの就職支援担当が力を合わせ、特に人事担当者との接触機会を提供するイベント（インターンシップ体験会、社員座談会）を多数企画しております。

ます。また、大手企業の就職に必要な適性試験の対策講座をはじめ、さまざまな対策を展開しております。

低学年のキャリア支援については、過度に就職活動を意識するのではなく、大学生活で一生懸命に取り組めるものを見つけることが重要です。そのため、1年生のキャリア教育や低学年支援イベントについても、ここ数年充実化を図ってまいりました。

公務員講座や難関資格試験講座も、学生の取り組みやすい方式（オンライン、オンデマンドなど）に変えるとともに、モチベーションを維持する仕組みや座学以外に面談などを取り入れ、成果がさらに上がっております。

将来の進路には不安が付き物です。具体的な就職相談以外にも、将来の不安などの相談には学年を問わずキャリア

アドバイザーが対応しております。キャリアセンターの活用によって、学生生活がより実りあるものとなれば何よりです。

キャリアセンターウェブサイト

<https://www.hosei.ac.jp/careercenter/hogosha/>



キャリア支援に関する情報や、保護者の皆さまから多くいただく質問と回答などを掲載しています。

首都圏父母懇談会報告 〈市ヶ谷キャンパス〉



実行委員長

西山 広二郎（裕人／デザイン工学部）

10月3日（日）、「2021年度市ヶ谷キャンパス首都圏父母懇談会」がオンラインにて開催されました。この父母懇談会は、2020年度はコロナ禍により中止となり、2年ぶりの開催となりました。

6月から、後援会の運営委員、常任幹事によって構成される実行委員会にて断続的に打ち合わせを行い、対面・オンライン併用のハイブリッド方式にて開催する方向で準備を進めてまいりました。

しかしながら、9月上旬に10月3日までの大学の行動制限レベルが発表され、オンライン主体の授業とキャンパス内での大規模イベント自粛の方針が大学より示されました。その方針を受けて、対面での開催を断念せざるを得ない状況となり、後援会運営会議にて全面オンラインでの開催を決定いたしました。

オンライン方式での父母懇談会の開催内容は以下のとおりです。
①学部別懇談会（午前4学部、午後4学部に分かれて開催）

②就職活動に関するお話（午前、午後の2回開催）

2019年度以前の市ヶ谷父母懇談会には、毎年800人前後の会員の皆さまにご参加いただいております。昨年度中止となったこともあり、今年度は、オンライン開催ながら1000人を超える会員の皆さまにお申し込みいただき、お子さまの通われている大学に対する会員の皆さまの関心の高さを改めて認識いたしました。ご参加いただきました会員の皆さまには、この場をお借りして御礼申し上げます。

今回、ご協力いただきました大学関係者の皆さま、準備をしてくださった後援会事務局の皆さま、また、後援会役員の関係者の皆さまにも厚く御礼申し上げます。



首都圏父母懇談会報告 〈多摩キャンパス〉



実行委員長

石川 英一（英生／現代福祉学部）

10月9日（土）に多摩キャンパスで首都圏父母懇談会が、コロナ禍により2年ぶりに開催されました。例年とは異なり、多摩キャンパスまでのバス乗車時の密を避けるため、法政祭とは別日程となりました。

自然豊かなキャンパス内はケヤキ並木の葉が少し黄色くなり、秋を感じさせる風景でしたが、天候にも恵まれ、教室内の気温は冷房が必要なほどでした。

多摩キャンパスには、経済・社会・現代福祉・スポーツ健康の4学部があり、広大な敷地には、陸上競技場、ホッケー場、野球場、総合体育館など立派なスポーツ施設があります。

9月下旬に発表された10月4日以降の大学の行動制限レベルの緩和を受け、今年度は事前申し込みによる対面での参加とオンライン参加のハイブリッド開催となりました。学部別懇談会、キャリアセンターによる就職状況や就職活動へのアドバイスの講演の他、構内循環バスを利用したキャンパスツアーが行われ、校舎だけではなく、体育館や図書館も見学できました。

※しかしながら個別相談、学食体験、懇親会については中止となり、保護者と大学関係者が交流を深める機会を持てなかつたのは大変残念です。



なるべく早く、参加者全員で校歌を歌える日常を取り戻したいと感じました。ご来場くださった保護者の皆さま、オンラインで参加された保護者の皆さま、ご指導ご協力いただきました大学関係者の皆さまに御礼申し上げます。今回はリモート参加ということで遠隔地からの参加も可能になり、本来の目的である父母の懇談の幅を広げること、今後の課題になると感じしております。ありがとうございました。

（※個別相談会は11月下旬にオンラインで実施。お申し込み方法は本誌10月号に掲載）

写真で見る 2021年首都圏父母懇談会



法政大学後援会事務局

〒102-0073
東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎4F
TEL : 03-3264-9350
FAX : 03-3264-9367
E-mail : koenkai@hosei.ac.jp

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



首都圏父母懇談会報告 〈小金井キャンパス〉



実行委員長
大笹 勝典 (寛暉 / 生命科学部)

10月10日(日)、小金井キャンパスで首都圏父母懇談会が3年ぶりに開催されました。

2019年度は台風で、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、2021年度も直前まで開催が危ぶまれましたが、何とか無事に当日を迎えることができました。

当日は対面とオンラインのハイブリッド方式で、感染症対策のため、対面会場では定員を設定しての開催となりました。幸い、途中で体調不良になる方も出ることなく、恒例の学生によるキャンパスツアーも実施できました。

全体会では廣瀬克哉総長による講演「コロナ禍における本学理系学部の特徴・研究について、その特色・役割・目指すもの」が行われました。このコロナ禍という大変難しい状況の中で、理系学部の強みや重要性を強く認識させられるお話を頂きました。

キャリアセンター小金井事務課の勝俣吉通主任による講演「理系学部生の最新就職状況、進学、キャリアアップと法政大学キャリアセンターの取り組み」

み」でも、

コロナ禍における直近の就職状況や進学状況などに、多くの保護者の方々が聞き入る様子

が印象的でした。



学科(専修)別説明会では学科・専修の紹介、履修・成績、研究室について、大学院への進学や卒業後の進路など、より具体的な情報を得ることができ、熱心に質問される保護者に教員の方々が丁寧に返答されていました。

最後になりますが、ご来場およびオンラインでご参加いただきました保護者の皆さま、ご指導ご協力を賜りました大学関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

後援会の活動紹介

1. 学生と大学への助成

課外活動、学生行事、各種講座、スーパーグローバル大学に対する支援、奨学・奨励金などの学生支援の他、図書・備品などの大学への助成・寄贈を行います。

2. 会員向け企画の充実

全国の支部で、保護者が教育環境や学生生活を知る機会となる「父母懇談会」と、新入生保護者の不安解消などを目的とした「新入生父母の集い」を開催します。

3. 広報活動の推進

広報誌「法政」の制作費などの補助を行い、「後援会だより」のページを充実させていきます。また、「会員のための大学ガイドブック」の作成、後援会ウェブサイトの運営、各活動報告やスポーツ応援などの情報発信も行います。

4. 自然災害等被災(コロナ困窮含む)学生への支援

自然災害等に被災(コロナ困窮含む)した学生への就学特別支援を実施します。

5. 法政大学後援会寄贈

学生と大学への助成の一環として、機器備品などの寄贈を行います。



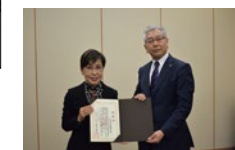
後援会賞授与式



父母懇談会



ガイドブック



感染症対策への寄付



多摩キャンパスの構内循環バス

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。



校友会アプリTOP画面イメージ



「校友会アプリ」アイコン

電子会員証の表示には、ログインが必要です。手続方法は、各会員にメール・郵送などでご連絡していますので、そちらをご確認ください。

校友会の会員の皆さまには、これまでプラスチック製のカード型の会員証をお渡ししていました。今後は校友会アプリを用いて、会員証を表示することができ

「校友会アプリ」の全機能がそろいました

2021年4月にリリースした校友会の公式アプリに、最大の特徴である「電子会員証」が追加され、すべての機能がそろいました。スマートフォンで、手軽にイベントや卒業生の情報を見られる校友会アプリの特徴をご紹介します。

校友会アプリでは、校友会に関するさまざまな情報を発信しています。
・「Pick up」…校友会の最新ニュースやイベント情報を随時更新
・「卒業生情報」…多彩なフィールドで活躍している卒業生を多数紹介
・「法政オレンジMAP」…卒業生が経営する飲食店・その他サービス等の店舗を掲載。電子会員証を提示すると、サービスや特典を受けられる

他にも、パートナー組織の情報や、校友会報「ORANGE JOURNAL」デジタル版などを発信、掲載しています。校友会会員以外でもダウンロードと閲覧が可能です。ぜひご利用ください。



「校友会アプリ」ダウンロードサイト (iOS・Android 共通)



電子会員証イメージ

2021年「法政フェア」はオンラインにて開催、校友会も各種企画を実施

例年、大学のキャンパスで開催する「法政フェア」ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、初の試みとしてオンラインにて開催。

11月21日(日)のメインイベント後も、一定期間(11月21日(日)～12月24日(金)を予定)は各種企画を視聴可能です。校友会も「猿田彦珈琲による、お家時間での珈琲の楽しみ方」「親子で楽しめる『ヨガ教室』」など、さまざまな企画を実施していますので、ぜひオンラインでお楽しみください。

「オンライン法政フェア2021」 <https://hoseifair.com/>



※2014年3月以降の卒業生は、卒業と同時に校友会の会員となっています
一般社団法人 法政大学校友会事務局 Tel 03-3264-1831 Eメール info@hoseinet.or.jp ウェブサイト <https://hoseinet.or.jp/>



HOSEI ミュージアム HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

ミュージアム・サテライト小金井竣工記念 法政理工系のあゆみ(後編) ～念願のキャンパス～

工学部は1950(昭和25)年の発足から2年後、富士見校地(現・市ヶ谷キャンパス)から港区の麻布校舎に移転しました。狭くて古い建物でしたが、活気に満ちた学び舎でした。学生が自主的な学びの場として「技術連盟」を結成し、工学祭(現・小金井祭)を始めたのも麻布時代です。

1956年『経済白書』に「技術革新」という言葉が登場するなど、日本の経済成長を追い風に、入学志願者は年々増加。施設拡充が急務となった工学部は、「工学部施設委員会」を立ち上げ、大学院の設置など教育研究体制の確立も目指します。ところが、空襲被害が大きかった

そつした中、理工系教育の充実が国の発展の重要課題であると認識し、技術系学部への拡充に深い理解を示したのが、1959年に就任した有沢巳経長です。有沢は大学創立85周年記念事業の筆頭に工学部新校舎建設を掲げ、工学部の施設問題が急速に進展しました。有沢総長が、工学部用地として東京都小金井市の土地を提案。1960年に中央線の新駅(現・東小金井駅)設置が決まると、小金井キャンパス開設が正式に決定します。

1990年代からの約20年間、小金井キャンパスでは校舎建て替えが続き、その姿を変えました。学部編成としては、2000年に情報科学部、2007年にデザイン工学部(市ヶ谷キャンパス田町校舎)、2008年に理工学部、生命科学部を設置し、現在に至っています。(前編は2021年10月号に掲載)



1

2021年度秋学期テーマ展示

「法政理工系のサステナビリティ研究」

ミュージアム・サテライト小金井の開設を記念し、法政理工系の歩み、理工系4学部の最新研究を紹介。

場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階
期間：2021年10月～2022年4月
詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト



新型コロナウイルス感染症の影響等により、日程や内容は変更になる可能性があります。詳しくは上記ウェブサイトをご確認ください。



3



2

- 1 工学部発展の功労者、有沢巳経長(1980年)。小金井キャンパス西館1階には、初代工学部長・加茂正雄と有沢の胸像が並んでいる
- 2 竣工時の小金井キャンパス(1964年)。教室や研究室の間仕切りには、学生数や使用目的に応じて自由に調節できる移動式パネルを採用
- 3 『新建築』(第38巻第4号・1963年4月、第39巻9月号・1964年9月、新建築社)。本学若手教員らによる「協同設計」は、計画段階から建築界で注目され、建築専門誌でも掲載された。



飯島陸選手、中井崇仁選手、宮本優選手が、2022シーズンからプロリーグへの加入内定



飯島陸選手 中井崇仁選手 宮本優選手
(全て写真提供:サッカー部)

本学サッカー部の飯島陸選手(経済学部4年)は、2022シーズンよりヴァンフォーレ甲府(J2)への加入が内定、在学中にJリーグの試合に出場可能となる「2021年JFA・Jリーグ特別指定選手」にも認定されました。

さらに、2022シーズンより中井崇仁選手(スポーツ健康学部4年)は藤枝MYFC(J3)へ、宮本優選手(現代福祉学部4年)は東京ヴェルディ(J2)への加入が内定しました。

今後も本学サッカー部出身選手の活躍にご注目ください。



プロ野球ドラフト会議で山下輝選手、三浦銀二選手、岡田悠希選手が指名選手に



左から、岡田悠希選手、山下輝選手、三浦銀二選手

10月11日(月)に開催された2021年プロ野球ドラフト会議にて、本学野球部の山下輝選手(経営学部4年)が東京ヤクルトスワローズから1位指名。さらに、三浦銀二選手(キャリアデザイン学部4年)は横浜DeNAベイスターズから4位指名、岡田悠希選手(人間環境学部4年)は読売ジャイアンツから5位指名を受けました。

左肘手術からのリハビリに苦しんだ山下選手は指名を喜び、「自分の武器でもあるストレートで押せるピッチングをして、まずは開幕1軍を目指して準備していきたい」と語りました。

三浦選手も「与えられたポジションでしっかりと結果を残せるよう、ストレートの質を上げて通用する選手になりたい」と語り、岡田選手は「三拍子揃った全てで活躍できる選手を目指したい」と意気込みを見せました。

プロ野球の世界へとはばたいていく3選手に、これからも温かいご声援をお願いします。



学生スタッフチーム・オレンジ企画「大学で被災したら?防災キャンプ」を開催

10月2日(土)から3日(日)にかけて、チーム・オレンジは、2019年から継続的に行っている「防災キャンプ」を開催しました。

「防災キャンプ」は、大学で被災した場合を想定した学内での宿泊体験です。災害支援・防災教育コーディネーターの指導のもと、避難体験ツアーや自動体外式除細動器(AED)の講習、クロスロード企画の実施などを通して、実際に被災した場合にどのような行動をとればいいのかを学びました。今回は、コロナ禍における避難所についての工夫もあわせて学びました。



第2回多摩キャンパス将来計画「環境リ・デザインプロジェクト」を開催

10月5日(火)、法政大学多摩キャンパス将来計画「環境リ・デザインプロジェクト」のワークショップシリーズとして、第2回オンライン座談会が開催されました。

「環境リ・デザインプロジェクト」は、未来を見据えながら多摩キャンパスのイノベーションに関する前向きな議論を深めるワークショップです。

当日は、第1回と同様に、学生、大学院生、教職員が対等な立場で、多摩キャンパスの未来を論じ合いました。



本でつながるコミュニティ 法政ブックLab(第2回)を開催

「法政ブックLab」は、課題本を読んだ感想などをビジネスチャットアプリや読書会を通じて共有することで、読書習慣が身に付くことを目指すオンライン・コミュニティです。

今回は『嫌われる勇気』(岸見一郎、古賀史健 著)を課題本として、10月25日(月)に読書会を開催。学生応援企画として、課題本は参加者にプレゼントしました。



理工学研究科の学生が「第17回情報科学ワークショップ」で優秀研究賞を受賞

9月13日(月)にオンライン開催された「第17回情報科学ワークショップ」にて、理工学研究科応用情報工学専攻に在籍する中井陸雄さん(修士課程2年)の論文が、優秀研究賞を受賞しました。

中井さんの論文は自律分散ロボット群の基本問題である集合問題を取り扱い、従来の結果を大幅に改善しました。

■受賞論文名

Asynchronous simulation of unfair semi-synchronous schedulers and its application to gathering algorithms



3キャンパスがそれぞれ、オープンキャンパス2021を実施



2021年度の夏のオープンキャンパスを下記の日程でオンライン開催しました。

■市ケ谷キャンパス 8月19日(木)、20日(金)、22日(日)

■多摩キャンパス 8月21日(土)

■小金井キャンパス 8月7日(土)、28日(土)

学生ガイドが動画でキャンパス内を案内するキャンパスツアーをはじめ、ウェブ会議ツールを利用して受験生からの質問にリアルタイムで答える個別相談、先輩からのメッセージなど、キャンパスごとに豊富なコンテンツが用意され、キャンパスライフの一端を疑似体験できる工夫がなされていました。

また、特別企画として秋のオープンキャンパス(来場型)を下記の日程で開催しました。

■市ケ谷キャンパス 11月7日(日)

■多摩キャンパス 10月23日(土)

ウォーキングツアーや学生によるトークショーなど、リアルな学生ライフを体感できる企画が用意されていました。

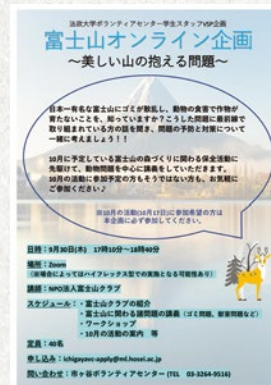
詳細はウェブサイトにてご覧いただけます。



富士山の保全活動に関わるオンライン講座と自然保護ボランティアを開催

10月17日(日)、市ケ谷ボランティアセンター主催で、富士山の森づくりに関わる保全活動(日帰りボランティア)が開催されました。富士山は、日本を代表する美しい山ですが、ゴミ捨てられたゴミが散乱し、動物の被害により作物が育たないなどの問題に近隣の住民は悩まされています。

参加者は保全活動に先立って、9月30日(木)に事前学習のためのオンライン講座を受講。当日は、十分に感染症対策を施した上で、現地までバスで移動し、保全活動に参加しました。



2021年度の公開情報をウェブサイトに掲載しています

本学では情報公開制度を実施しています。2021年度の公開情報は大学ウェブサイトでご覧いただけます。



情報公開



奨学金継続手続きに関するお知らせ(日本学生支援機構奨学生)

現在、日本学生支援機構奨学金を貸与および給付されている方は、2022年度に向けた奨学金継続手続きが必要です(2022年3月までに奨学金の貸与・給付が終了する方は除く)。

手続き方法の詳細は12月中旬ごろ、お知らせ配信および大学ウェブサイトにてご案内する予定です。



2021年度に新設された冠奨学金のご紹介

ご寄付をいただいたことにより、次の三つの奨学金が2021年度より新設されました。いずれも給付型で返済不要の奨学金です。なお、2021年度の募集・採用は終了しています。

- 「新谷 皇(にいや ただし)奨学金」
 - 「公益財団法人日本厚生文化振興財団記念奨学金」
 - 「法政大学後援会支部出身学生支援奨学金」
- 各奨学金の概要は、大学ウェブサイトでご覧いただけます。



オンライン学生国際交流プラットフォーム「e⁴square(イーフォースクエア)」始動

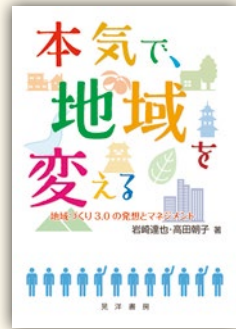
大学間協働でニューノーマル時代のグローバル人材を育成するため、本学では文部科学省「大学の国際化促進フォーラム」に選定された「大学間協働による学生国際交流プラットフォーム構築プロジェクト」の基盤となる「e⁴square(イーフォースクエア)」をスタートしました。

e⁴squareでは、オンラインの特性を最大限生かし、「国境や大学の垣根を超えた、学生の創造的な交流の場の形成」や「海外大学生との交流を『日常』にすること」を目指します。

日本そして各国から集まった学生プランナー・学生特派員が、自由で柔軟な発想に基づくオンライン交流会を開催する他、学生生活をテーマにしたVlog(ビデオログ)の発信を行います。

本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

BOOKS



本気で、地域を変える 地域づくり3.0の発想とマネジメント

令和以降の低成長時代での持続可能な地域を目指す「地域づくり3.0」。住民の内発的な自立を行政がサポートしながら、地域の魅力を最大限引き出すための新たな資源整理のフレーム（TAIモデル）を提示し、実践的な地域づくりを提案する。岩崎達也本学兼任講師との共著。

高田 朝子 著 他1名
専門職大学院
イノベーション・マネジメント研究科 教授
出版社：晃洋書房
発 行：2021年2月



白昼の絞殺魔 刑事課・桔梗里見の猟奇ファイル

新人刑事・桔梗里見の初の殺人現場は、女子大生が絞殺された上、ヘソをえぐり取られるという猟奇的なものだった。頻発する絞殺事件と同一犯の仕業か。プロファイリングの専門家で変人刑事の「歩く殺人百科」平瀬とともに犯人を追うが…。異色パディがプロファイリングで犯人に迫る、新・警察小説。

前川 裕 著
国際文化学部国際文化学科 教授
出版社：KADOKAWA
発 行：2021年8月



はじめての組織行動論

組織の中での個人の態度や行動について考察する組織行動論を、身近な例やイラストを交えて親しみやすく説き明かした入門テキスト。読者が自らの体験と照らし合わせながら理解を深められるように構成されている。本書掲載のイラストは、西川真規子教授による描画。経営学を学ぶ学生のみならず、職場での人間関係に関心のある社会人にも参考になる一冊になっている。

西川 真規子 著
経営学部経営学科 教授
出版社：新世社
発 行：2021年4月



パムクの文学講義 直感の作家と自意識の作家

小説は直感と自意識の間を揺れながら書かれ読まれる言語芸術といえる。そこでは実体験が想像とどう混じり合い、キャラクターがプロットや時間とどう組み合わせられ、描写が絵画や博物館とどう結び付いているのか。小説独自の「隠れた中心」の感覚とは何か。『わたしの名は赤』『雪』の作品で知られるノーベル賞作家が語る読書／創作論。

オルハン・パムク 著
山崎 暁子 訳
文学部英文学科 教授
出版社：岩波書店
発 行：2021年8月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

HOSEI 11・12月

令和3年11月20日発行
第48巻第8号（通巻727号）

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



法政大学生協同組合書籍部より

＜市ヶ谷キャンパス＞

大学キャンパス内の書店として

2021年は昨年と比べて、キャンパスへ来る機会が増えているかと思います。法政大学生協は学生の勉強研究活動に貢献できる店舗をこれからも目指していきます。就活関連書、資格書、語学学習書など、生協ならではの品揃えで皆さまをお待ちしています。学術書や話題の本も厳選して取り揃えるようにしています。

教科書のオンライン販売も2年目を迎え、たくさんの皆さまにご利用いただきました。どうもありがとうございます。その一方で、リアル店舗での本との偶発的な出会いも、われわれとしては意味のあることだと考えています。

生協の店舗は皆さまの声によって変化していきます。品揃えの要望などは積極的にお寄せください。キャンパス内に書店が存在するということの大切さを皆さまと共有しながら、これからも本を届けていきたいと思っています。

（市ヶ谷購買書籍部）



ブランディング推進チームの活動

本学のブランディング活動は、2014年度に長期ビジョン(HOSEI2030)の一環として「ブランディング戦略会議」を設置したことに始まり、2016年度からは「ブランディング推進チーム」へと受け継がれ、現在に至ります。大きな成果の一つが法政大学憲章の制定で、教職員一同が法政らしさとは何かを一から考え、議論を重ね、言葉を紡いで「自由を生き抜く実践知」という憲章を策定しました。ブランディング推進チームは学部・部局横断の有志の教職員メンバーで構成されています。現在は、学内における本学ブランドの共有化や学外への発信を重視し、活動しています。

本記事ではブランディング推進チームの活動の一部をご紹介します。

自由を生き抜く実践知大賞

法政大学憲章を体現する教育・研究などの実践を顕彰し、広く発信・共有することで、法政大学ブランドをさらに強化・周知していくために、2017年度より「自由を生き抜く実践知大賞」を設けました。これまでに全学から多くの実践事例の応募があり、その中から大賞と特別賞を選定してきました。受賞した実践事例は、広報誌「HOSEI」や本学ウェブサイトを通じて学内外に発信しています。2019年度受賞者・ノミネート者全員の集合写真



職員向けブランディング・ワークショップ、各種研修講座

本学の「ブランディング・サポーター（法政大学憲章を自分ごととして語る職員）」を養成することを目的として、2016年度から継続的に専任職員向けのワークショップを開催しています。

また、人事部が主管する階層別研修（専任職員向け）のプログラムの一つとして、2016年度から継続してブランディング推進チームのメンバーが研修を担当しています。これまでに計33回の階層別研修が実施され、延べ約460人の専任職員に対してブランディング講演とワークショップを開催しました（2020年度末時点）。



2019年12月は「2050年の未来において、法政大学は社会に何を提供すべきか」をテーマに開催

学生向け「法政大学憲章」講座

学生に法政大学憲章の周知・浸透を図るため、2016年度以降、学部の入門・基礎ゼミや専門ゼミを対象に「法政大学憲章」講座を実施しています。また、ピアネット学生スタッフ※にもワークショップを行い、憲章の紹介やそれぞれの活動が「自由を生き抜く実践知」を体現していることを共有しています。



2018年12月のピアネット学生スタッフ合同研修会

ブランディングサイト「HOSEI PHRONESIS」

法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を分かりやすく学内外に発信するために、2016年にブランディングサイト「HOSEI PHRONESIS（法政フロネシス）」を開設しました。

PHRONESIS（フロネシス）とは、「実践的な『知』」を表す古代ギリシャの哲学的な概念で、本学の実践知を象徴する言葉として命名。「教育」「研究」「グローバル」「ダイバーシティ」「キャリア・就職」「データで見る法政」「伝統」の七つのテーマを軸に、さまざまな角度から法政大学の「いま」を紹介しています。



HOSEI PHRONESIS（法政フロネシス）

本学の2014～2020年度のブランディング活動を取りまとめた「法政大学ブランディング事業報告書」は大学ウェブサイトでご覧いただけます。



2021年度「自由を生き抜く実践知大賞」まもなく決定！

2020年度に続き、2021年度もさまざまな活動がノミネートされました。今年度は、これからの時代を見据えた「Withコロナを生き抜く実践知」を体現する多様な実践事例の掘り起こしを意識して実施します。以下、今後のスケジュールです。

2021年11月 ノミネート取り組みの決定
2021年12月 ノミネート一覧の公表※
2021年12月18日（土）表彰式開催
2022年1月 受賞一覧の公表※
2022年3月 広報誌「HOSEI」2022年3月号にて受賞一覧を掲載（予定）
2022年4月 広報誌「HOSEI」2022年4月号より各受賞の紹介を掲載（予定）

※ブランディングサイト「HOSEI PHRONESIS（法政フロネシス）」などで公表を予定しています。



HOSEI PHRONESIS (<http://phronesis.hosei.ac.jp/>) では、2020年度以前の「自由を生き抜く実践知大賞」の各賞の詳細や表彰式の動画などもご覧いただけます。



※本学では学生が学生を支援する取り組み、「ピア（Peer:仲間）・サポート」活動を積極的に実施しています。学生スタッフが教職員と共働しながら、さまざまなプログラムを企画から運営まで主体的に行っています。



2021年度卒業記念品 卒業アルバム

お申込み受付中

お申し込みなどの詳しい情報は下部ホームページをご確認ください。



法政大学の卒業アルバムは、
「お名前」が印字された世界に一冊だけの
卒業記念品です。

法政大学卒業アルバム

- 規格 : A4版 カラー 約300ページを予定
代金 : 20,000円(税込・送料込)
受渡 : 宅配便でご自宅への配送となります。
※宅配便は2022年8月頃発送予定です。
企画・監修 : 法政大学卒業アルバム事業委員会
協力 : 一般社団法人法政大学校友会、学校法人法政大学、
法政大学後援会、法政大学生協同組合
編集・出版 : 株式会社エイチ・ユー

アルバムコンテンツ(予定)

法政百年史/総長メッセージ/学部長メッセージ/
キャンパス写真/個人写真/ゼミ集合写真/
部活・サークル集合写真/思い出スナップ/ス
ポーツ法政/イベント写真(入学式・卒業式等)
/先生からのメッセージ/ニュース写真等

※写真はイメージです。



検索

法政大学 卒アル

法政大学卒業アルバム事業室

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-2-3 帝都青山ビル1F
TEL : 0120-037-645 HP : <https://www.hoseinet.jp>

